

SAXOPHONE

サクソフォーン

これが、僕の勧めるアンブシュアだ

大石将紀

おいしい・まざのり



- ◆出身 千葉県立船橋東高校、東京芸術大学、パリ国立高等音楽院
- ◆所属 東邦音楽大学
- ◆趣味 旅
- ◆血液型 B型
- ◆星座 おひつじ座
- ◆読者にひとこと 旅に出よ！
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

管楽器は息を入れて音を鳴らしますが、楽器と、人間の肺から口までの、2つの「管」が連結されることで、肺からの息で楽器が振動して音が鳴るのです。この2つの「管」をつなぐのが「口」ですが、両方を結ぶ障害にならないように、自然な「口の形」(=アンブシュア)を作らなければなりません。

なので、いい口の形を作れないと、音が全く鳴らないっていうのは、もうみなさんも経験済みでしょう。また、安定した音が出せるようになって、さらに音色・発音などのテクニックを左右する重要なポイントとして気にしなければならぬ……、今回は最初にして奥が深い「アンブシュア」のレッスンです。

さて、ここで紹介するアンブシュアは、僕が学生時代のときに初めて習い、フランス留学中に固めていったものです。日本でもこのスタイルで演奏する人が徐々に増えてきましたが、みなさんが最初に習ったものと少し違うかもしれません。でも僕はこのアンブシュアを強くお勧めする！ マウスピース、リードを無理な力で押さえつけることなく、柔軟に変化させることができ、音色の変化もつけられるし、高音・低音のコントロールもしやすく、さらに下唇が歯で切れることがなくなったりと、よいことづくしのフレンチアンブシュア。ぜひ試してください。

■まずは口の形から

マウスピースにリード、ネックをつけた状態で練習します。歯がマウスピースから滑らないようにするために、マウスピースパッチをつけた方がいいです(つける位置が先端になりすぎないように注意)。鏡を見ながらチェックしてください。

①最初はマウスピースをくわえずに口笛を吹いてみる(口の形は鏡でチェック)。口笛を吹けない人は吹ける人のまねをする。「ウ」と言うときの口の形になっているはず。

②口笛の形のまま、下唇を歯の上に少しだ

け巻き、下の歯に押しつける。

③マウスピースの先端から1cm くらいのところを、下唇の上にそっと置く(テナー、バリトンはそれより3、4mm 深く)。

④上の歯をマウスピースの上にそっと置く。下の歯と同じ位置に合わせて。

⑤マウスピースのまわりを「口笛の形」のままで包みこむ(【写真】)。

■形ができれば、ここを確認しよう

・口笛の口の形はキープできていますか？

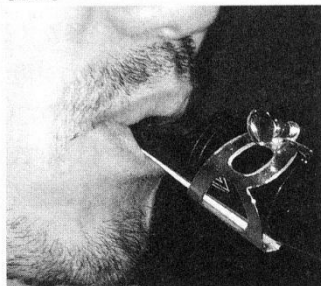
上下のあごの力にまかせて、かんでマウスピースを支えるのではなく、口の周囲の筋肉全体でマウスピースを包むように。マウスピースのまわりを輪ゴム(=口の筋肉)でパチリと止めるイメージです。ふだん使わない口の横の筋肉を使うので疲れると思いますが、楽器を吹くことによって鍛えられます。僕も練習をしばらく休むと、最初にここの筋肉の衰えを感じます。

・上下の歯の位置はそろっていますか？ そろっていないと息がまっすぐ楽器に入りません。下あごが出すぎると「キーッ」と鳴ってしまうので注意。

口を自然に閉じて「イーッ」として、歯のかみ合わせを鏡で見てください。たいていの人は上の歯が下の歯よりも前に出ているはず。下の歯の方が前に出ているかみ合わせの人もいますが、アンブシュアを作るためには、上下の歯を同じ位置に合わせます(【図】)。最初にも言った通り、体と楽器の2つの「管」を、できるだけ自然につなぐので、アンブシュアによってできる抵抗

【写真】

は少ない方がいいのです。ストレートな息が楽器に入るアンブシュアや口の中の形を探しましょう。音色・発音にも大きく影響しますし、今後高い音を出すテクニック(フラ



ジオ奏法など。今後紹介します)に挑戦するときも役立ちます。

・下あごは梅干しのようにつくらなくてもいいですか？ こうなっていると、下あごによけいな力が加わって、柔軟なアンブシュアになりません。平たくなるように、あごの骨格に筋肉を貼りつける感じにします。

■口の中は？

マウスピースをくわえずに、「ヒー」と声を出してみましょう。舌の奥が上あごの方へ上がっている感覚を覚えておいてください。

次にマウスピースを、先ほどのアンブシュアでくわえます。舌を「ヒー」と言うときの位置にして、その上に息を滑らせるようなイメージで「ヒューッ」と息を入れてみましょう。

今回のポイント、**体と楽器を1本の管としてつなぐアンブシュアにするためには、ほつべたをふくらませたり、口の中を必要以上に広くして、息のスピードを殺してしまわないように！** 口の中を狭くすることによって細くて鋭い息を楽器に送り込み、芯のある音を鳴らしましょう。音が詰まった感じになってしまう人は、マウスピースをほんの少し深くくわえるか、下あごを少しだけおろしてリラックスさせ、リードに加わるプレッシャーを少なくしてみましょう。キーキーいってしまう人は、逆にマウスピースを深くくわえすぎているかもしれません。

自分の音をよく聞きながら練習することがとても大切です。アンブシュアは個人個人で少しずつ変わってくるので、最後は自分の耳を頼りに微調整してくださいね。

【図】



上下の歯の位置を描え、楽器にまっすぐ息を入れる